

## ヤマガタダイカイギュウの化石発見から40年

神村ふじを

私の住んでいる大江町は来年町制施行60周年を迎える。そこで、記念として大江町にまつわる題材をもとに、みんなで楽しめる絵本を制作しようということになった。その題材として白羽の矢が立ったのがヤマガタダイカイギュウの「ぶくちゃん」である。

ヤマガタダイカイギュウとはあまり聞き慣れない言葉だと思うのだが、800万年前に生息していたとされる大海牛である。40年前に最上川の河原からその化石が発見されており、私の住んでいる大江町では「ぶくちゃん」の愛称で親しまれている。

まずは、絵本を制作するにあたって、子どもたちの発想をもとに筋書きし、絵本作家のつちだよしはる先生（鶴岡市出身）が一つの話にまとめるといふ計画なのだが、まずは私に小学生の子どもたちにヤマガタダイカイギュウの話をしてくれないかと依頼がきて、30分ほど話をする事になった。

46億年前の地球の生い立ちからスタートして、ヤマガタダイカイギュウが現れるまで45億数千万年。歴史は好きな方だが、原始時代以前のこととはほとんど知らないのと同然で、地球誕生から始まって億単位で進む時間の尺度があまりに大きすぎて、戸惑いしかなのが本音だった。それを1年生から6年生までを対象に分かりやすく話すとすると、これがなかなか難しい。どこに焦点を当てて話せばいいのか自分でも分からなくなってしまう。

そこで地球カレンダーなるものがあることを発見した。地球の誕生から現在までの46億年の地球の歴史を、365日の1年分のカレンダーで表したすぐれものである。これを見ると、人間誕生の歴史など鼻くそみたいなので、地球誕生から人間誕生までの歴史はそこはかとなく遠く大きく、天壤無窮の地球にあつて、人間など極々微々たるものであることを痛感してしまう。

産業革命が起きて世の中は大きく変化したが、その産業革命など年が変わるわずか1秒前の出来事であることにはまったく驚かされる。

- 1月1日 午前0時 地球誕生 46億年前
- 2月9日 陸と海が生まれる 41億年前
- 2月25日 最初の原始生命が誕生 39億年前
- 11月6日 寒冷化と温暖化を繰り返す 7億年前
- 11月20日 魚類が現れる 5億年前

12月13日 恐竜が現れる 2億5000万年前  
12月19日 鳥類が現れる 1億8000万年前  
12月26日 恐竜が減じる 6600万年前  
12月31日午前10時30分頃 ぶくちゃんの時代 800万年前  
12月31日午後11時00分頃 人類の祖先ホモサピエンス誕生 50万年前  
12月31日午後11時59分 文明の誕生 1万年前  
12月31日午後11時59分46秒 イエス・キリスト誕生  
12月31日午後11時59分59秒 産業革命(2000年前)

今から1500万年前頃、東北地方のほとんどは深い海の底に沈んでおり、現在の山形県にあたるところも全域が海の底にあった。その後、この海のところどころに海底火山の爆発が起こり、海の中に山が突き出ているような地形が出来上がった。

1000万年前頃になると、地盤が隆起して海が少しずつ浅くなっていった。庄内から新庄、山形、米沢にかけての1帯が広く静かな浅い海になったのである。

そして800万年前頃になると、その静かな海にヤマガタダイカイギュウが生息するようになり、生い茂る昆布などの海藻を食べて生活していたと言われている。

500万年前頃になると、地盤の隆起はさらに進み、日本海と陸地は切り離されて、米沢、山形、新庄のところに凹みができて湖になっていった。その湖をつなぐように最上川が流れるようになった。その湖の最後の名残が南陽市赤湯の白竜湖だと言われている。「ぶくちゃん」の姿を想像できるように話を進めていったのだが、今から800万年前、山形は静かで広く浅い海だった、と言っても大人でさえなかなか想像できないところがあって、子どもたちならなおさらという感じだが、中には畑から出た貝の化石を持っているなどという子もいて、理解を助けるのに大いに役立った。

近くに、西川町海味かいしゅうとか白鷹町貝生かいしょうという地名があったり、南陽市赤湯の白竜湖の写真を見せたりして、海である名残を理解させようと努めたところである。

大海牛は新生代第三紀に生息していた、あのアンデルセンの「人魚姫」のモデルになったと言われるジュゴンの先祖にあたる生物であった。

今年と同じような渇水に見舞われた昭和53年8月21日、大江町立左沢小6年生の渡辺政紀君まことと齋藤正弘君は最上川に釣りに出掛け、近くの橋の上流約100mの岩盤に動物の化石のようなものを発見した。岩に突き刺さった背骨とそれにくっついた肋骨で、一瞬恐竜の化石ではないかと思ったと言う。二人は学校の先生に話をし、学校では県立博物館に連絡、調査が始まった。

調査では、2メートル四方くらいの範囲に大きな肋骨、脊椎骨を確認し、クジラらしい貴重な大型動物化石であること、ひと雨来たら水没してしまう可能性があることなどを考慮し、緊急に発掘

することを決定した。

8月30日、当時の建設省山形工事事務所の許可があり、大型削岩機を使って岩盤に穴を開け、化石を含んだ大きいブロックを発掘した。途中、雷雨に見舞われたが、岸まで土ゾリで運び、ユニツク車で持ち上げ、その日のうちに博物館に運んだ。

タガネを使い岩石から化石を掘り出すクリーニング作業中に、黒いエナメル質の歯の噛み合う面（咬合面）がすり減った臼歯が見つかり、クジラの化石ではなく草食の大型海生動物であるらしく、ひょっとしたら新種のものである可能性も出てきたが、決め手はなかった。

そこで、海牛化石研究の世界的権威、アメリカハワード大学のドムニング博士に鑑定を依頼することにした。その結果、この海牛から見つて先祖にあたるゾルダン海牛と子孫にあたるクエスタ海牛の中間の種であることが明らかになり、海牛の進化の過程の謎が明らかになる世界的に大変貴重な化石の発見であり、ヤマガタダイカイギュウと命名された。

渡辺さんと斎藤さんは、学校の先生に化石の発見を報告したところ、規則で子どもたち同士では川へ行ってはいけないことになっていたので、大変叱られてしまった。子ども心に叱られた以外は何も覚えていないと語っているが、新聞記事になったり、いろいろな会に招かれたりしているうちに、大変な発見だったんだと次第に分かってきたと当時のことを述懐している。

良かれと思って先生に話したばかりに大目玉をくらった渡辺さん、斎藤さん。教師というのは

そういうところがあるよなあと、私も教師の端くれなのでそう思ってしまうが、まずは化石の発見を褒めてほしかったというところなのだろう。

考えてみれば、自然との関わりや遊びの中には、子どもたちの好奇心を掻き立てたり、思わぬ大発見があったりする。学校ではどうしても座学中心になってしまいうので、体験を伴う活動にこそ生きた学びがあると思うのだが、危険と隣り合わせとなりがちで、大人の都合から随分と縛りを掛けてしまってきたのではと思ってしまう。40年前でさえそうなのだから、今の時代は何をかわんやである。

参考資料…広報おおえNo.691（2018年9月）

山形新聞「ヤマガタダイカイギュウ40年目の目覚め

上中下」（2018年8月30日～9月1日）

写真提供…大江町教育委員会

